

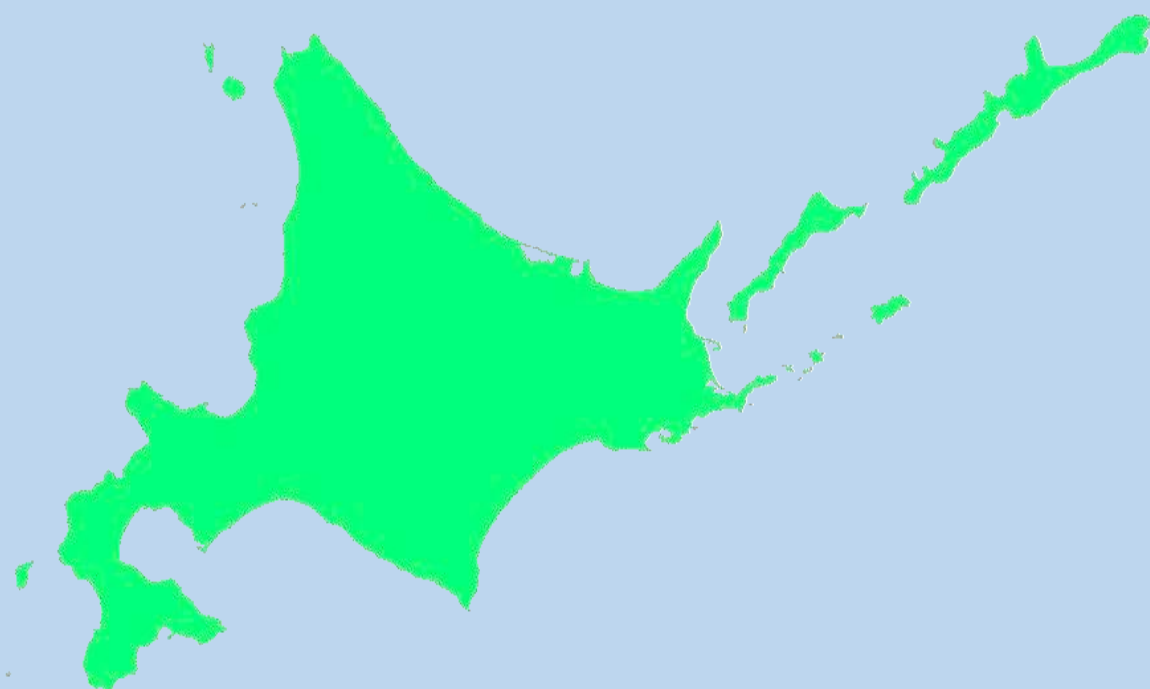
第31号(通巻第75号)  
令和8年(2026年)3月

# 特別支援教育 ほっかいどう

Journal of Special Needs Education in HOKKAIDO

【特集】

「みんなではぐくむ」～早期からの相談や支援～



北海道立特別支援教育センター

# 「みんなではぐくむ」～早期からの相談や支援～

## 巻頭言

「特別支援教育ほっかいどう」第31号の発刊に当たり

北海道立特別支援教育センター所長 柏木拓也・・・1

## 特集1 ～保護者とはぐくむ～

子どもの就学先を考えた際の思いや願い

北海道函館盲学校PTA会長 由利里美・・・2

## 特集2 ～保健師とはぐくむ～

子育てを共に支える保護者との関わりで大切にしていること

新ひだか町こども家庭センター保健師 角野かなえ・・・4

就学を見据えた時期における、保護者との関わりで大切にしていること

弟子屈町役場健康こども課保健師 渡邊麻依子・・・6

## 特集3 ～発達支援センターとはぐくむ～

発達支援センターとして子どもや保護者との関わりで大切にしていること

上ノ国町子ども発達支援センター副センター長 木本優香・・・8

## 特集4 ～教育委員会とはぐくむ～

保護者と子どもが安心して小学校入学を迎えるための就学説明会

浦河町教育委員会管理課・・・10

小学校就学に向けた支援と取組

～すべての子どもたちと保護者が安心して就学できることを目指して～

富良野市教育委員会教育支援課・・・12

## コラム

保護者に寄り添う特セン教育相談事業部の取組

北海道立特別支援教育センター主査（教育相談事業部長） 岡森博宣・・・14

**「特別支援教育ほっかいどう」第31号の発刊に当たり****北海道立特別支援教育センター****所長 柏木 拓也**

当センターでは、本道における特別支援教育への理解を一層深め、その充実を図ることを目的として、毎年本誌を発刊し、道内各地の実践や取組を紹介しています。

近年、保護者が抱える子どもの発達や学びに関する不安や悩みは多様化しており、就学前の早い段階から適切な相談や支援につなげていくことが一層大切となります。

本号のテーマは「みんなではぐくむ～早期からの相談や支援～」です。子どもや育ちをはぐくむためには、家庭だけで抱え込むのではなく、早い段階から地域や関係機関がつながり、それぞれの立場で役割を果たしながら協働していくことが不可欠です。特に障がいのある子どもや発達や学びに関する不安がある子どもを育てる保護者に対しては、話を身近に聞いてもらうことのできる存在や、将来の見通しや不安を和らげる情報提供、そして、子どもの成長・発達のため、一緒に向き合ってくれる方々の存在がとりわけ重要となります。こうした状況を踏まえ、「みんなではぐくむ」という視点から本テーマを掲げることといたしました。

本号では、「こどもをまんなか」をキーワードに、関係する方々にご協力をいただき、それぞれの立場から大切にしている思いや役割、具体的な取組を紹介しています。特集1では保護者の方から、子どもの就学先を考えた際の思いや願いを、特集2では保健師の方から、子育てを共に支える保護者との関わりで大切にしていること、就学を見据えた時期における保護者との関わりで大切にしていることを、特集3では発達支援センターの方から、保護者との関わりで大切にしていることを、特集4では教育委員会の方から、保護者と子どもが安心して小学校入学を迎えるための就学説明会や、小学校就学に向けた支援と取組を取り上げています。

本誌が、保護者の皆さまの就学の際の不安を少しでも和らげるとともに、関係者の皆さまが連携の在り方を考えるきっかけとなり、子どもの確かな育ちを支える一助となることを願っております。

子どもの就学先を考えた際の思いや願い

北海道函館盲学校PTA会長 由利里美

様々な人との出会いに支えられながら、少しずつ前に進んできた歩みについて、早期相談から現在までをふりかえり、北海道函館盲学校PTA会長の由利さんに保護者のお立場からお話を伺いました。

1 生まれた時のことについて

——お子様が生まれた当時の様子や心境をお聞かせください。

(由利さん) 出産予定日に生まれましたが、心臓に雑音が見つかり、すぐにNICU（新生児集中治療室）へ搬送されました。医師から息子の寿命のことや、いくつかの障がいを併せ有していることについて説明を受けましたが、私は、すぐに理解して受け止められる状況ではなく、精神的に不安定な状態が続きました。

周囲の人と関わることを避けて誰にも相談せず、保健師からの支援さえ拒否していた時期もありました。誰かに頼ろうとも思いませんでした。

2 相談した時のことについて

——その後、どのようなきっかけで函館盲学校とつながったのかお聞かせください。

(由利さん) 息子に視覚障がいがあることが分かり、友人の紹介で盲学校を知りました。盲学校はどのような所なんだろうか、息子に合うだろうかなど、不安はたくさんありましたが、教育相談に行ってみることにしました。盲学校の先生は、息子のことだけでなく、親である私自身の気持ちにも寄り添って、親身に話を聞いてくれました。また、今後の就学先のことや息子に合った支援に関することなどを丁寧に教えてくれました。



——相談した際に、印象に残っていることは何ですか。

(由利さん) すぐに心を開く余裕がなかった私に、時間を掛けてゆっくりと悩みに耳を傾け、丁寧にアドバイスをくださった当時の先生方に、大変感謝しています。

また、同じ時期に自立支援センターにも通い、学校や医療に加えて福祉機関とつながることで、息子の成長を多方面から支えてもらえたと感じます。

——お子様が学校や自立支援センターに通い始めてからの様子を教えてください。

(由利さん) 学校や自立支援センターでは、息子の成長に合わせた遊び方や声掛けをしていたので、息子自身が楽しく過ごしていたと思います。病院の先生からは、「ハイハイや寝返りはできないと思ってください」と言われていましたが、自立支援センターや学校に通い出してから、少しずつハイハイや、つかまり立ちができるようになりました。息子は、もっといろいろなことができるんだとその様子を見て、私自身も可能性を感じました。

### 3 幼稚部や小学部、現在のことについて

——幼稚部や小学部在学時に印象に残っている出来事があればお聞かせください。

(由利さん) 幼稚部では、運動会や学習発表会が印象深く残っています。息子の好きなことを生かした活動や、練習の積み重ねを通して、「できなかったことが、できるようになっていく」姿を何度も見ることができました。小学部では、学習発表会で披露したミュージカルが忘れられません。先生方と子どもたちが一体となり、一人一人が今できることを最大限に発表する姿に胸がいっぱいになりました。

——今後の目標は何ですか？

(由利さん) 現在、息子は中学部に在籍しています。発語が少なかった息子ですが、今では「おはようございます」と挨拶を交わすことができるようになったり、着替えなどの際に、手伝いをする私に協力的な動作もしてくれたりしています。先日、病院に通院した際は、担当する医師に一礼して挨拶している息子の姿に、社会性が身に付いたと実感しました。息子の今後の目標としては、スプーンを使って一人で食事し、最後まで食べ終わることができるようにすることを目指しています。



### 4 さいごに

——就学先を考える際に、由利さんが大切にしていたことはありますか。

(由利さん) 子どもの就学先を考える際には、様々な関係機関の立場の方から話を聞き、現在のことだけでなく、子どもの将来を見据えて相談していくことが大切であると感じています。

——今、就学等に悩んでいる保護者の方へメッセージをお願いします。

(由利さん) 私からお伝えしたいことは、情報収集と人とのつながりの大切さです。学校や療育機関では、子どもの特性に応じた支援の方法や家庭での関わり方など、具体的で実用的な情報を得ることができます。その際に、同じような境遇の保護者と出会い、悩みを共有することは、保護者自身の大きな心の支えになります。周囲の方と相談しながら、保護者として今できることを一つずつやっていくことができればよいと思います。

また、子どもの将来を考える中で、成年後見制度などの理解についても、早い段階から理解を深めておくことの大切さを感じています。保護者が一人で抱え込まず、必要な支援とつながりながら歩いていけることを心から願っています。

——この度は、就学先を考えた際の思いや願いについて、お話をお伺いさせていただきありがとうございました。

(由利さん) ありがとうございました。

## 子育てを共に支える保護者との関わりで大切にしていること

新ひだか町こども家庭センター保健師 角野 かなえ

保護者の子育てのはじまりに生じる、不安や迷いに対して、保護者と向き合う際に大切にしている関わりを、新ひだか町の保健師の立場から角野さんにお話を伺いました。

### 1 新ひだか町の子育て支援について

——角野さんはどのようなお仕事を担当されているのですか。

(角野さん) 主に乳幼児健診や幼稚園・保健所の連絡会、不妊治療に関する業務を担当し、お子さんの成長やご家庭の状況を伺いながら、必要な支援につなぐ役割を担っています。

——新ひだか町の子育て支援について教えてください。

(角野さん) 新ひだか町では、転入・転出が多い地域性であることや、身近に頼れる親族がいる家庭とそうでない家庭があるなど、子育て環境が様々なので、切れ目のない支援体制づくりを大切にしています。妊娠届出時の母子健康手帳の交付から妊娠中期の面談、乳児期の育ちを見守る赤ちゃん訪問まで、担当保健師が継続して関わる体制をとり、家庭の状況を丁寧に把握しながら支援を行っています。

また、お母さんの心身のリフレッシュを目的とした無料の一時預かり事業や、こども家庭センターでの遊び場開放など、保護者が気軽に足を運べる場づくりにも取り組んでいます。そこでは、子育て中の方や子育てを終えた先輩方が「親子サポーター」として関わり、初めての方にも声を掛けながら温かく迎えています。健診の場面でも見守りや声掛けを行うなど、地域全体で子育てを支える環境づくりを進めています。

### 2 保護者からの相談について

——角野さんが保護者と関わる時に大切にされていることはありますか。

(角野さん) 保護者の皆さんと関わる中で、私が何より大切にしているのは、まずじっくりとお話を聞くことです。相談に来られる方の多くは、不安や迷いを抱えながら、「誰かに聞いてほしい」という思いで足を運んでくださっています。だからこそ、その気持ちを丁寧に受け止めることを心掛けています。お話の中では、「あの時こうしていればよかった」と、保護者のご自身を責める言葉を耳にすることも少なくありません。そんな時、私が大切にしているのは、「その時に一生懸命考えて出した答えなのだから自分を責めなくていい」とお伝えすることです。子どもを思って選んできた一つ一つの判断には、必ず意味があります。その時の自分を否定するのではなく、まずはご自身を認めてほしいとお伝えしています。

そして「これからどうするか」を一緒に考えていきます。子どもの小さな成長や前進を分かち合いながら、安心して話せる存在であり続けられるよう心掛けています。

### 3 関係機関との連携について

#### ——保育園やこども園との連携で工夫していることはありますか。

(角野さん) 保育園やこども園とは、日頃から情報共有を大切にしています。健診だけでなく、園での様子やご家庭での姿を共有し合うことで、子どもの成長を多面的に捉えられるように心掛けています。特に5歳児健診は、就学を意識し始める大切な節目の機会ですので、園での集団生活の様子も踏まえながら、成長や不安について保護者と一緒に考え、整理する場となるよう努めています。

また、支援は保健師だけで担うものではありません。保育所や幼稚園、発達支援センター、教育委員会など、様々な関係機関と連携しながら進めています。

特別な支援の有無に限らず、就学相談の際には、これまでの経過を保護者と共有した上で、教育委員会と連携しながら進めています。また、入学までの準備や生活の整え方についてまとめたリーフレットを活用し、保護者に具体的にお伝えすることで入学までの見通しを持てるようにし、不安の軽減につなげています。子どもと保護者が安心して次のステップへ進めるように、関係機関と力を合わせながら、就学前から切れ目のない支援を続けています。

### 4 さいごに

#### ——保護者の皆さまにメッセージをお願いします。

(角野さん) 子育ては、決して一人で抱え込むものではありません。不安や迷いを感じたとき、「誰かに話してもいい」「相談してもいい」と思っただけなら、それだけで大きな一歩です。

私たちは、生まれる前からの成長の過程に寄り添いながら、切れ目のない支援を大切にしています。これまでの経過や情報を丁寧に受け止め、関係機関と連携しながら次の支援へとつないでいくことも、保健師の大切な役割の一つです。

全てを私たちだけで担うことはできませんが、様々な部署や関係機関と力を合わせながら、子どもも保護者も安心して園や学校に通い続けられる環境を整えていきます。

保護者の皆さんとつながりながら、安心して子育てができる環境を一緒につくっていきましょうと願っています。

#### ——この度は、保護者と向き合う際に大切にされている関わりについて、お話をお伺いさせていただきありがとうございました。

(角野さん) ありがとうございました。



就学を見据えた時期における、保護者との関わりで大切にしていること

弟子屈町役場健康こども課保健師 渡邊 麻依子

子どもの成長が進み、就学を意識し始める「これから」を見据えた時期に、保護者の気持ちに寄り添いながら、安心につなげる関わりを弟子屈町の保健師の立場から渡邊さんにお話を伺いました。

### 1 弟子屈町の子育て支援について

——渡邊さんはどのようなお仕事を担当されているのですか。

(渡邊さん) 主に妊娠期から出産後の子育て期までを支援し、乳幼児健診を中心に、療育機関との連携や会議にも関わっています。また、産後ケア事業やお母さんのレスパイト支援などの制度整備にも取り組んでいます。

——弟子屈町の子育て支援について教えてください。

(渡邊さん) 弟子屈町では、子どもや家庭を切れ目なく支えるための支援ツール「ましゅうのわ」(図)を、2022年3月から乳幼児健診等でお渡ししています。子どもが生まれたその日からの成長の歩みを丁寧に残し、必要なときに振り返ることができること、そしてその子どもの歩みが一目で分かるものになることを願って作成しました。

乳幼児健診では、健診日や健診結果、発達や身体の成長の様子などを保健師が記入し、ご家庭と一緒に積み重ねていきます。就園や就学、転出など環境が変わるときにも、これまでの健診結果や発達の経過、支援の内容を一つの記録としてまとめて伝えることができるため、初めて子どもと関わる先生や支援者にも子どもの様子を理解してもらいやすくなります。保護者が安心して子育てを続けられるよう、担当者が変わっても支援が途切れない体制づくりを進め、地域全体で子どもの成長を見守ることを大切にしています。



図[ましゅうのわ]

### 2 保護者からの相談について

——渡邊さんが保護者と関わる時に大切にされていることはありますか。

(渡邊さん) 私が保護者と関わる際に大切にしていることは、保護者の思いをまずはそのまま受け止めることです。子育ての中で感じる不安や迷いは、どのご家庭にもあるものです。お話を聞く中で「心配なさそうかな」と思える場面もありますが、日々子どもと関わっている保護者が抱く違和感や「なんとなく気になる」という感覚には、きっと意味があると感じています。子どものことを一番よく知っているのは保護者です。

だからこそ私は、「支援する側」としてだけでなく、「教えてもらう」気持ちでお話を聞くことを大切にしています。また、保護者が、安心して自分の気持ちを話せるように心掛けています。

### 3 関係機関との連携について

#### ——保育園やこども園との連携で工夫していることはありますか。

(渡邊さん) 弟子屈町には、町立の保育園と民間のこども園があります。保健師や発達支援センターの職員が定期的に園を訪問することで、電話では伝えきれない細やかな情報交換や保護者との相談がしやすい関係が築かれています。月に一度の会議では、療育につながっている子どもの情報や、集団生活の中で個別の支援が必要な子ども、就学に向けて発達面や生活面で気になる様子が見られる子どもについても、担任の先生方と情報を共有し、協力して支援に当たっています。お互いに声を掛け合い、顔を合わせることで、園と家庭、そして支援機関の間に風通しのよい関係が生まれ、子どもたち一人一人に合わせた支援につなげることができるのではないかと考えています。

### 4 さいごに

#### ——保護者の皆さまにメッセージをお願いします。

(渡邊さん) 子どもを取り巻くさまざまな関係の中で、保健師として一番大切にしているのは「普段からの関わり」です。子育て支援における連携は、特別な場面で生まれるものではなく、日々の小さなコミュニケーションの積み重ねから生まれるものだと感じています。相手の話を傾聴し、気持ちに寄り添い、時には雑談も交えながら関係を深めていくことで、安心して率直に話し合える関係が育っていくと考えます。こうした風通しの良い関係が、保護者や関係機関との連携を深め、子どもにとってよりよい環境づくりにつながっていくと思います。焦らず、一歩ずつ関わることで、やがて大きな支えになります。日々の小さなやり取りや関わりが積み重ねが、思いもよらないほど大きな力になる。そんなことを、活動の中から改めて実感しています。そうした普段からの関わりを大切にしながら、これからも保護者の皆さんとともに子どもの成長を支えていきたいと考えています。

#### ——この度は、保護者と向き合う際に大切にされている関わりについて、お話をお伺いさせていただきありがとうございました。

(渡邊さん) ありがとうございました。



## <特集3>発達支援センターとはぐくむ

発達支援センターとして子どもや保護者との関わりで大切にしていること

上ノ国町子ども発達支援センター副センター長 木本優香

発達に関する心配や悩みを抱える中で、子どもと保護者が安心して過ごせる場として、遊びを通じた関わりを上ノ国町子ども発達支援センターの立場から、木本さんにお話を伺いました。

### 1 上ノ国子ども発達支援センターについて

——現在の利用状況（利用児童数）について教えてください。

（木本さん） 28人が在籍し、週に1回の利用をされる方もいれば、週に2回利用されている方もいます。

——上ノ国発達支援センターの特色を教えてください。

（木本さん） 私たちは、「遊びの中でさまざまな経験を重ねていくこと」を大切にしています。お子さんそれぞれに、少し苦手を感じることや、これから伸ばしていきたい力がありますが、苦手なことだけに目を向けるのではなく、遊びの中に、言葉のやりとりや身体の動き、順番を待つ経験などを取り入れ、子どもに応じた関わりを大切にしています。子どもたちが夢中になって遊んでいるうちに、「できたね」「こんな経験もしていたね」と世界が広がる、そのような時間を積み重ねていけたらと願っています。

### 2 保護者からの相談について

——保護者から寄せられる悩みや不安には、どのようなものがありますか。

（木本さん） 「かんしゃくが強くて心配」「一人で学校に通えるでしょうか」「平仮名に興味がなくて大丈夫か」など、就学に向けた不安の声が寄せられます。また、「45分間椅子に座ってられるか」「字が書けるか」「気持ちの切り替えができるか」など、日々の生活や集団生活を見据えたご心配もあります。就学という節目に、不安を感じるのはとても自然なことだと思います。

——木本さんが、保護者の気持ちに寄り添う上で心掛けていることはありますか。

（木本さん） お話のあとに「気持ちがすっきりしました」「少し楽になりました」「気分転換になりました」と感じていただけたらという思いで向き合っています。特別なことをするのではなく、保護者の思いをそのまま受け止め、ゆっくりとお話を伺うことを大切にしています。子どものことでも仕事や家族のことでも構いません。「そういえば、ここに話せる人がいたな」と思い出してもらえる存在でありたいですし、気軽に声を掛けてもらえる場所でありたいと願っています。そんな気持ちで、日々保護者と向き合っています。

### 3 子どもと関わるときに大切にしていること

—お子さんと関わるときに、大切にしていることはありますか。

(木本さん) まず大切にしているのは、子どもに緊張感を与えないことです。少し離れたところから「どんなことが好きで、どんなことに困っているのかな」と子どもの気持ちを探ります。また、関わるときは子どもにとって理解しやすい環境を整え、分かりやすい伝え方を心掛けています。療育を通して「楽しかった」「自分のことを分かってもらえた」と感じるなど、満足感や安心感を味わえる時間を大切にしながら、日々子どもたちと向き合っています。

—お子さんと関わるときに、環境づくりなどで具体的に工夫されていることはありますか。

(木本さん) 環境づくりは、特別なことというよりも、子どもの動きを丁寧に見ることから始まります。例えば、靴をしまう場面で迷う様子があれば、目印を付けるなど視覚的な工夫を取り入れます。「どうしたら分かりやすいかな」と考え、環境を整えることを大切にしています。

### 4 関係機関との連携について



—保育園との連携で、大切にしていることや工夫されていることを教えてください。

(木本さん) 保育園を訪問する機会は多くあります。個別的な支援でうまくいっている方法も、集団生活の中ではそのまま当てはまらないことがあります。そのため、園の環境や先生方の思いを大切にしながら、取り入れやすい方法を一緒に考えています。「どうすればできそうか」を対話しながら探ることを大切にしています。訪問時は保健師とも情報を共有し、必要に応じて関係機関につなぐなど、継続した支援を意識しています。

—小学校との連携についても教えてください。

(木本さん) 就学に向けては、「一度小学校を見学してほしい」と保護者の方にお伝えしています。学校ごとに異なる雰囲気や特色があり、実際に足を運ぶことで「我が子がここで過ごす姿」を思い描きやすくなります。また、小学校とのやり取りは保健師と情報を共有しながら進め、ライフステージが変わっても切れ目のない支援につながるよう体制を整えています。

### 5 さいごに

—さいごに、保護者の皆さまにメッセージをお願いします。

(木本さん) 発達支援センターは、見えにくい部分もあり、インターネットでは具体的な雰囲気が伝わりにくいこともあります。それでも、どの地域にも子どもやご家族のために力を尽くしている人たちがいます。「少し話を聞いてみたい」と動くことが、安心につながることもあります。それぞれの場所に、子どもとご家族を支えようとする人がいることを、心の片隅においていただけたらうれしいです。

—この度は、子どもや保護者との関わりで大切にされていることについて、お話をお伺いさせていただきました。ありがとうございます。

(木本さん) ありがとうございます。

### 保護者と子どもが安心して小学校入学を迎えるための就学説明会

浦河町教育委員会管理課

保護者や子どもが安心して、小学校に入学できるように工夫している就学説明会の取組について、浦河町教育委員会にご紹介をいただきました。

#### 1 はじめに

浦河町では、子どもの小学校入学を前に、保護者や子どもが安心して就学を迎えることができるよう、就学説明会を行っています。対象は、年長・年中の子どもがいる保護者をはじめ、幼児教育施設の先生、発達支援センターの職員など、就学に関わる方たちです。就学説明会では、「どのような準備が必要なの?」「うちの子は大丈夫かな?」といった保護者の疑問や不安を少しずつ解消していくことを大切にしています。

#### 2 「就学前に大切にしたい4つの育ち」について

説明会では、当町の小学校の先生から、「小学校に入るまでに大切にしたいポイント」(図1)についてお話をしています。小学校生活を安心してスタートするためには、勉強の準備だけでなく、幼児期における子どもの体や心の土台を築くことがとても大切です。この土台は、幼児期の頃からの毎日の遊びや生活の中での経験、人との関わりを通して少しずつ育っていきます。子どもの「できること・できないこと」だけに目を向けるのではなく、今の子どもの育ちで大切なことを保護者と一緒に確認しています。

##### 1 体を動かして遊ぶ経験

自分で触れ、動き、試す遊びは感覚を育て、発達を促します。大人と一緒に遊び、楽しい時間を共有することも子どもの情緒の安定につながります。

##### 2 基本的な生活習慣の形成

十分な睡眠、適度な運動、栄養バランスの取れた食事など、生活リズムの確立が心身の成長の基盤となります。

##### 3 ソーシャルスキルの獲得

友達と遊ぶ経験は、思いやりやコミュニケーション能力を育てます。また、挨拶をすることは、人と関わる最初のステップであり、自分から進んでできるようになることが望ましく、遊びを通して対人関係や社会性の基礎が育まれます。

##### 4 愛着の形成

特定の大人との安定した関係(愛着)は、基本的信頼感の土台となり、知的能力や情緒の安定、社会性の発達を支えます。家庭は子どもの「心の安全基地」として重要な役割を果たすため、家庭での安心感が、子どもの成長に大きく影響します。

図1 [小学校に入るまでに大切にしたいポイント]

### 3 就学前に行う教育相談について

特別な支援を要する子どもの就学前に行う教育相談では、保護者のお話を丁寧に伺いながら、幼児教育施設、学校、保健センター、子育て支援センター、医療や療育の機関などと連携し、子どもに合った学習環境や支援方法について、一緒に考えていきます。また、保護者の要望に応じて、小学校の先生が幼児教育施設を訪ねたり、保護者の方と子どもが就学する小学校を見学したりすることもできます。保護者が子どもの就学先について迷ったときや心配なことがあるときには、何度でも相談することができる体制にしています。

### 4 おわりに

本町では、新小学一年生になる全ての家庭に「子育て支援ファイル おーるうえいず」(図2)を配付しています。このファイルは、子どもの成長やこれまでの様子を記録し、必要な支援につなげるためのものであり、保護者や子ども、保健・医療・福祉・教育などの関係機関が情報を共有すること(図3)で、子どもに必要な支援を整理したり、受けやすくしたりしています。子どもが就学する時期は大きな節目です。これからも当町では、各関係機関と連携しながら、保護者や子どもが安心して新しい生活を始めることができるよう支えていきます。

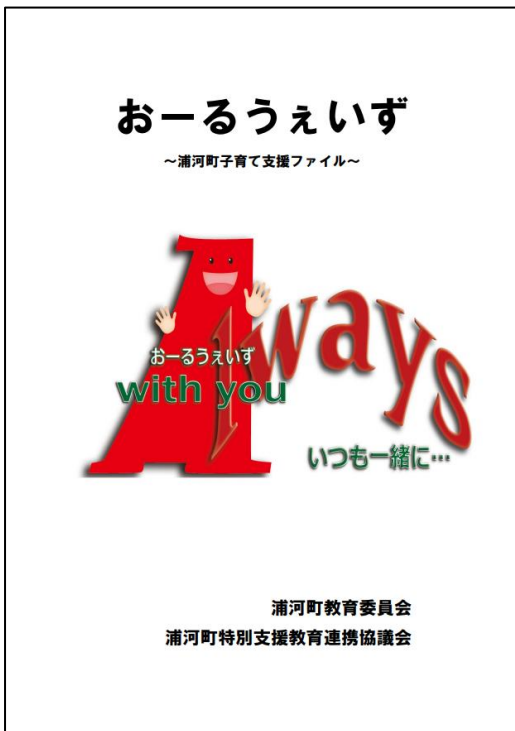


図2 [子育て支援ファイル おーるうえいず]

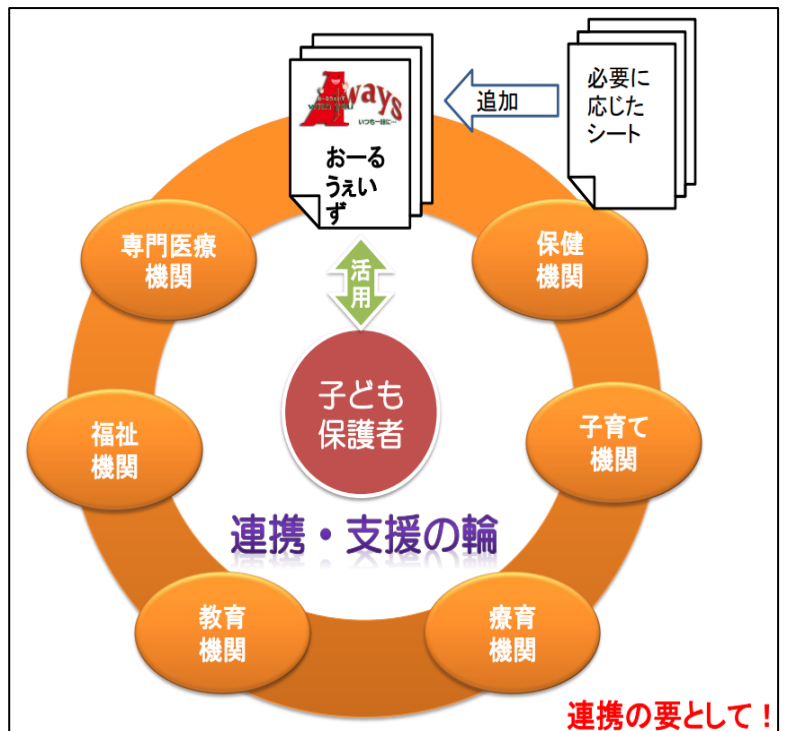


図3 [連携・支援の輪]

## ＜特集4＞教育委員会とはぐくむ

### 小学校就学に向けた支援と取組

～すべての子どもたちと保護者が安心して就学できることを目指して～

### 富良野市教育委員会教育支援課

小学校への入学に向けて、保護者と子どもが安心して準備を進められるように工夫している支援や取組について、富良野市教育委員会にご紹介をいただきました。

#### 1 はじめに

現在、富良野市には、小学校6校、義務教育学校1校があります。児童数は減少傾向にあるものの、学習上・生活上で支援を要する児童が増加傾向にあることから、教育委員会が主体となり、関係機関との連携の下、適切な就学の場や悩みを抱える保護者を支えるための取組を進めています。

#### 2 「子ども支援ガイドブック」の作成・配付について

保護者が、本市における就学までの流れ（図1）、子どもの教育的ニーズに応じた就学の場や就学前後における支援等について理解できるよう、「子ども支援ガイドブック」（図2）を作成し、毎年4月に各幼稚園・保育所を通じて、年長児の保護者へ配付しています。

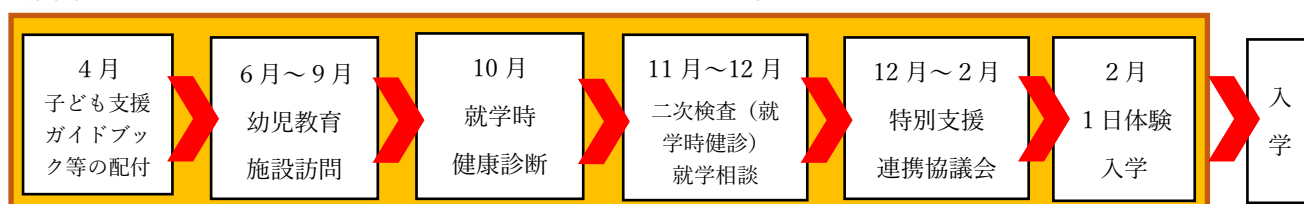


図1 [富良野市における就学の流れ]

就学時健康診断の前には、市内の小学校の特別支援教育コーディネーターが幼稚園・保育所を訪問し、一人一人の状況や発達段階等について、担当者と共有しています。

また、児童発達支援機関を利用している幼児については、4月に就学説明会を実施するとともに、保護者の希望に応じて、随時発達検査や構音検査、保護者による就学先の見学（通常の学級、特別支援学級、通級指導教室）を実施し、在籍等の早期決定を検討します。

#### 3 富良野市特別支援連携協議会について

本市では、教育委員会や各小・中学校、市の関係部署や幼稚園・保育所、高等学校や医療機関等と連携し、「富良野市特別支援連携協議会」を構成し、就学の場を検討する教育支援委員会の開催や就学前後の支援等を実施する専門家チーム派遣を行っています。



図2 [子ども支援ガイドブック]

「専門家チーム」は、学校管理職、小・中学校の特別支援教育コーディネーター、医療機関や児童発達支援機関、心理士等で構成されており、保護者等の教育的ニーズに合わせて幼稚園や保育所へ訪問し、就学前の教育相談や発達検査の実施、就学後に必要な支援策等の検討を行います。

また、特別支援連携協議会内に「コーディネーター連絡会」を位置付け、特別支援教育コーディネーターの資質向上に向けた研修会を実施するなど、各校の支援体制強化や適切な支援策の検討につなげています。(図3)

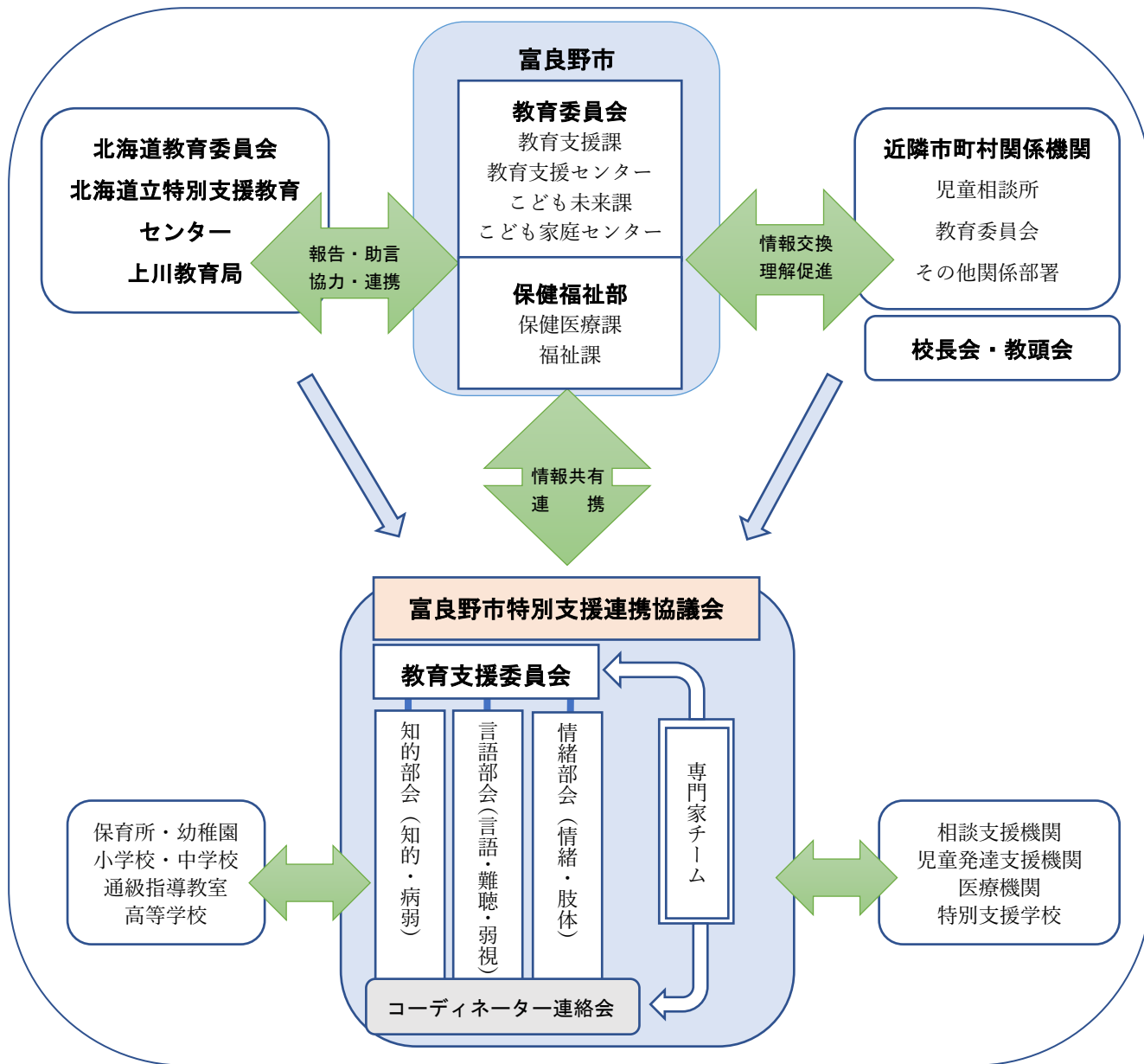


図3 [富良野市特別支援連携協議会の関連図]

#### 4 おわりに

今後は、本市の特別支援教育の方向性と重点施策を示す「特別支援教育マスタープラン」を改定し、全ての幼児が誰一人取り残されず、就学後に適切な支援を受けられるよう、学校及び関係機関との連携強化を進め、本市における特別支援教育の一層の充実を図っていきます。

## 保護者に寄り添う特セン教育相談事業部の取組

### 北海道立特別支援教育センター主査

(教育相談事業部長) 岡 森 博 宣

#### ○ 教育相談の方法と内容

当センターでは、特別な教育的支援を必要とする子どもが、地域の中で安心して成長していくことができるよう、本人や保護者の方の主訴に応じた教育相談を行っています。特別支援教育の専門性を有する相談員が、お子さんの発達の様子や障がいの状態について丁寧にお話を伺いながら、「お子さんが安心して生活するためにはどうしたらよいか」や「お子さんの得意な面を生かした学び方は何か」などを一緒に考え、分かりやすくお伝えしています。電話やメールによる教育相談では、保護者の方が子育ての中で感じているお子さんの発達に関する不安や悩みについて、気軽にご相談いただくことができます。来所教育相談では、当センターにお越しいただき、お子さんの学びの場や関わり方について、必要に応じて心理検査を活用するなど、主訴に応じた助言を行っています。また、北海道各地で実施している巡回教育相談を利用することで、お住まいの地域の近くで相談を受けることもできます。さらに、相談後のお子さんの状況を電話で確認したり、Web会議システムを活用して学校や関係機関と相談内容を共有したりするなど、相談後のフォローアップも行っています。

#### ○ 教育相談で大切にしていること

私たち相談員が、本人や保護者の方との教育相談で何より大切にしているのは、「気持ちに寄り添いながらお話を聴くこと」(写真)です。安心して話ししていただけるよう、結論を急がず、一つ一つの思いを丁寧に伺っています。教育相談は、答えを一方的にお伝えする場ではなく、保護者の方と共に考えながら次の一歩を見つけていく時間です。子育ての中で感じる不安や迷い、戸惑いについて話すことで、保護者の方の気持ちが整理されたり、新たな気づきにつながったりすることも少なくありません。その上で、お子さん一人一人の発達の様子やよさに目を向けながら、ご家庭や園、学校でできる具体的な支援方法やよりよい関わり方についてお伝えしています。必要に応じて関係機関とも連携しながら、継続的な支援につなげていくことを大切にしています。



写真【教育相談の様子】

○ 当センターが行う巡回教育相談

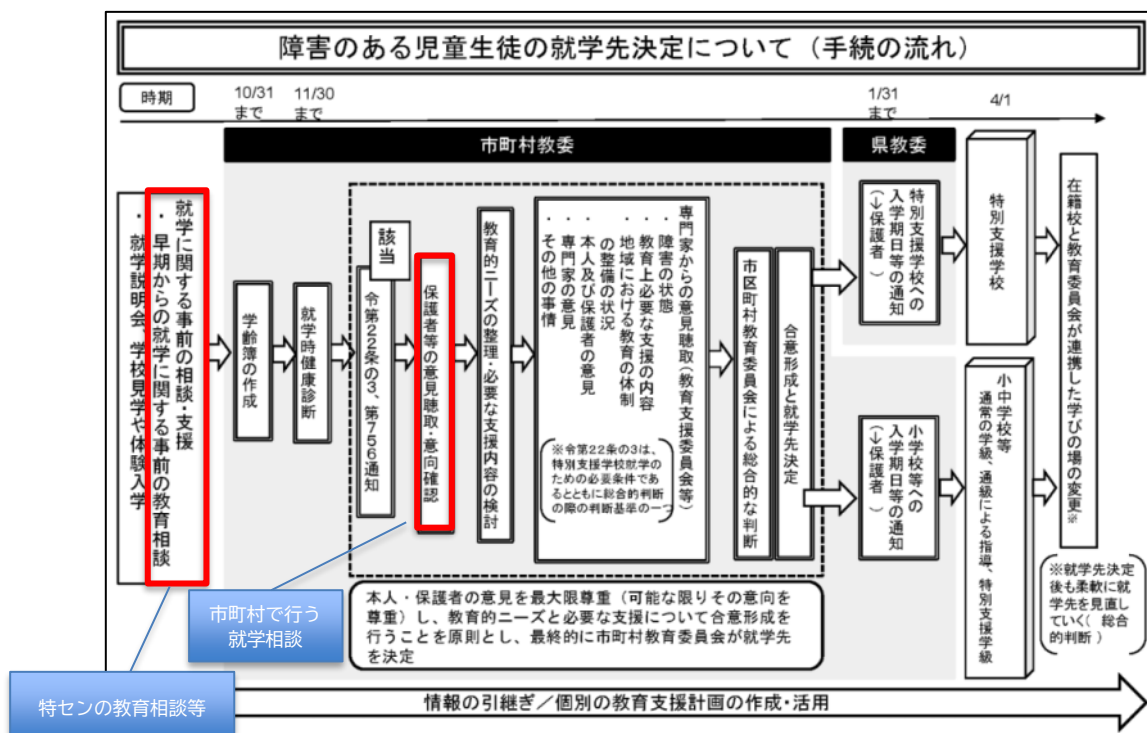
当センターでは、令和8年6月から9月にかけて、「札幌まで行くのは難しい」「時間の確保が難しい」といった声に答えるため、道内13の教育局管内に相談会場を設け、特別な教育的支援を必要とするお子さんと保護者の皆様のご相談を受けています。相談時間は90分程度で、お子さん一人一人の状況に応じて、今後の支援の在り方や関わり方について助言します。当日は、家庭や園・学校での様子を丁寧に伺うとともに、実際にお子さんに関わりながら発達の状態を捉えます。必要に応じて心理検査等も行い「得意なこと」や「よいところ」に目を向けながら、どのような学びの場や支援が合っているのか、家庭や学校でどのような関わり方があると力を発揮できるのかを一緒に考えていきます。

○ 就学先の検討に向けた当センターの教育相談の役割

就学先の決定に当たっては、本人及び保護者の意見を最大限尊重しつつ、対象となる子ども一人一人の教育的ニーズと必要な支援の内容を踏まえ、本人及び保護者と合意形成を図った上で、最終的に市町村教育委員会が決定します。（資料1）

当センターの教育相談では、保護者が学びの場の希望を整理したり判断したりできるよう、お子さんの発達の状況を踏まえ、思いや考えを丁寧に聞き取りながら教育的ニーズを整理し、必要な指導・支援を提供できる学びの場について当センターの考えをお伝えしています。

就学先の検討に当たり、市町村教育委員会から就学に関する意向を尋ねられた際は、当センターが相談後に送付する「教育相談の結果」を参考にしながら意向を伝えることができます。



資料1【障害のある子供の教育支援の手引き（文部科学省）】

○ お子さまの就学先を考えている保護者の皆様へ

就学先となる学びの場には、通常の学級、通級による指導、特別支援学級、特別支援学校などがあります。（資料2）就学時の学びの場は固定されるものではなく、お子さんの発達や学習の習得状況などの成長に合わせて、最大限お子さんが力を発揮できる学びの場へと柔軟に変更することができます。



【資料はこちらからダウンロードできます】

北海道教育委員会 子どもが充実した時間を過ごし、生きる力を身に付けていける学校・学びの場を求めて  
就学先決定に当たって知っておきたいポイント

**小・中学校**

**通常の学級**

- 学習上の困難に応じた支援を受けることができます。
- タブレット端末を使った支援
- 座席の位置を配慮
- 支援員による個別支援

**通級指導教室**

- 大半の授業は通常の学級で受けます。
- 週に1～2時間程度、通級指導教室で特別の指導（自立活動）を受けます。

**特別支援学級**

- 少人数の学級（8人以下）で一人一人に応じた教育が行われます。
- 週の半分以上の時間は、特別支援学級で授業を受けます。
- 通常の学級の子どもと共に学ぶ「交流及び共同学習」も行います。
- 【知的障がい特別支援学級】  
子どもの実態に応じた、内容を学習します。
- 【知的障がい以外の特別支援学級】  
通常の学級と同じ内容、又は下の学年の内容を学習します。

**特別支援学校**

**Point**

特別支援学校は、法令に定められた障がいの種類、程度に該当する子どもが就学可能

- 障がいの状態などに応じた、きめ細かな教育が行われます。
- 近隣の学校や居住地の小・中学校との交流及び共同学習を行うことがあります。

本道の特別支援学校→

**Point**

地域の小学校や特別支援学校の様子を知るため、就学説明会、学校見学、体験入学へ参加を！

**Point**

就学について不安がある、特別支援学校や特別支援学級を考えている場合は、できるだけ早期（4月、5月ある人は更に前）に市町村教育委員会へ相談を！

**障がいのある子どもの就学先決定までの流れ（例）**

11/30まで 就学時健康診断

10～1月 学びの場の検討・判断

1/31まで 小学校又は特別支援学校の入学

**Point**

就学時に決定した学校・学びの場は変更することが可能

**Point**

保護者の意向は最大限尊重

資料2【就学先決定に当たって知っておきたいポイント（北海道教育委員会）】

そのためには、それぞれの学びの場でどのような学習等が行われているのかについて、話を聞いたり、直接見たりすることで理解を深めるとともに（資料3）、お子さまがよりよく学び、達成感を持ちながら充実した学校生活を過ごすことができるよう、園や学校をはじめ、療育機関や教育委員会などの関係者と思いや考えを共有しながら、お子さんに関わるみんなで就学先を考えていくことが大切です。

すべての保護者の皆様へ

お子様の入学やその後の学習等について、理解を深めるための参考にしてください。

本リーフレットの感想を入力ください。

☆ 二次元コードを読み取ると、説明動画を視聴することができます。  
☆ Q8～12は保護者や当事者の感想を収録しています！

**就学前**

Q1 就学先決定までの流れは？

- 10月31日 まで 学齢簿の作成
- 11月30日 まで 就学時健康診断
- 学びの場の検討・判断
- 1月31日 まで 入学期日等の通知

Q2 就学の仕組みは？

**就学後**

Q3 学びの場ってどんなところ？

- 特別支援学校
- 小・中学校、高等部
- 小・中学校、高等学校等
- 通常の学級
- 通級による指導
- 特別支援学級（小・中学校のみ）

Q4 高校と特別支援学校の違いは何？

Q5 就労にはどんな制度があるの？

一般企業での就労

- 企業での障がい者雇用
- 福祉制度を活用した就労
- 就労移行支援
- 就労継続支援A型
- 就労継続支援B型

Q6 就労や生活で困った時にどこに相談したらいいの？

生活の場

- グループホーム
- 施設入所

Q7 生活の場にはどんなところがあるの？

Q8 就学時の保護者はどんな気持ち？

Q9 特別支援学校に通う本人はどんな気持ち？

Q10 中学校卒業後の保護者はどんな気持ち？

Q11 卒業後の保護者はどんな気持ち？

Q12 卒業後の本人はどんな気持ち？

資料3【すべての保護者の皆様へ（北海道教育委員会）】

## 編集後記

「特別支援教育ほっかいどう」第31号（通巻第75号）をお読みいただきました皆様、大変ありがとうございました。

本号では、「みんなではぐくむ」～早期からの相談や支援～をテーマに、保護者、保健師、発達支援センター、教育委員会の皆さまにお話を伺いました。作成に当たり、それぞれの立場は異なっていますが、子どもやご家族に寄り添い、ともに歩もうとする思いは共通しているということを感じました。困ったときや迷ったときに、子どもの発達や学びをはぐくむ多くの方々がいて、保護者の皆様が本号をそっと手に取っていただき、安心につながるきっかけとなれば幸いです。

また、当センターといたしましては、皆様方の御示唆をいただきながら、本道の特別支援教育の充実を目指し、様々な事業を推進してまいりますので、今後ともよろしく願いいたします。

最後になりましたが、原稿の執筆に係るインタビューや資料、情報提供への回答にご協力いただいた皆様に厚くお礼申し上げます。

### —それぞれの特集記事の協力者—

- |     |                                      |
|-----|--------------------------------------|
| 特集1 | 北海道立函館盲学校PTA会長                       |
| 特集2 | 新ひだか町こども家庭センター保健師<br>弟子屈町役場健康こども課保健師 |
| 特集3 | 上ノ国町子ども発達支援センター副センター長                |
| 特集4 | 浦河町教育委員会管理課<br>富良野市教育委員会教育支援課        |

## 「特別支援教育ほっかいどう」第31号（通巻第75号）

発行：令和8年（2026年）3月

編集：北海道立特別支援教育センター

北海道札幌市中央区円山西町2丁目1番1号

TEL 011-612-6211（代表） FAX 011-612-6213

E-mail tokukyo.12@pref.hokkaido.lg.jp

URL <http://www.tokucen.hokkaido-c.ed.jp>

公式X [https://twitter.com/pref\\_tokucen](https://twitter.com/pref_tokucen)

Instagram [https://www.instagram.com/tokucen\\_hokkaido/](https://www.instagram.com/tokucen_hokkaido/)

YouTube <https://www.youtube.com/channel/UC7o4hsCTaA7LKcBpMMw4UPIA>



特セン  
Webページ



特セン公式X



特センInstagram



特セン@ほっかい  
どうチャンネル

発行者：北海道立特別支援教育センター所長 柏木拓也